

風力発電業界のスマート保安に関する取り組み方針(1/2)

1. スマート保安に関連する状況・問題点

- 洋上サイトのアクセス性が悪い。(特に冬場の日本海側について顕著)
 - 現在の定期点検指針(JEAG5005)を適用した場合、半年点検を規定通りに実施することが困難となる可能性がある。
 - 停止を伴う警報を確認した場合、ダウンタイムが長時間となる可能性がある。
- 落雷後の巡視・点検から運転再開までに時間を要している。
- メーカーによって保有しているスマート技術(ボルト緩み等)を現時点で必ずしも活かしてきていない。
- 風車の大型化、さらに洋上サイトは設置基数が多いことから、巡視・点検に要する時間が増大する傾向にあると考えられ、より効率的な点検方法の確立が必要。

【JWPAが取り組むべき方向性】 ⇒スマート保安を適用しやすい環境づくり



- A) 目視をベースとする巡視・点検の考え方から、センサー・カメラ等による遠隔監視対応を可とする具体的な考え方を早急に整備することが重要。
- B) ドローン等点検の効率化につながり、かつ展開しやすい技術について、適用事例の蓄積と知見の共有を図る。
- C) スマート保安に関する継続的な情報の発信を図る。

風力発電業界のスマート保安に関する取り組み方針(2/2)

2. 中期的な取り組み方針

- A) 洋上に展開可能な、センサー・カメラ等による遠隔監視対応を可とする具体的な巡視・点検の考え方の整備
 - ① 巡視・点検項目と遠隔監視技術の対応の整理(2021年度中)
 - ② 遠隔監視技術適用の考え方の整理(2021年度中)
 - ③ 基準類の体系的な整備(①②の整理後なるべく早く)

- B) 点検の効率化につながり、かつ展開しやすいスマート技術(ドローン等)に関する適用事例の蓄積と知見の共有
 - ① スマート技術の適用事例に関するデータベースの構築(2021年度中)
 - ② 適用事例の蓄積を通じた課題等の把握と対応検討(2022年度以降)

- C) スマート保安技術の適用に関する啓発の推進
 - ① 部会・人材育成研修等におけるセミナー実施
 - ② 国等から発信される最新動向の発信